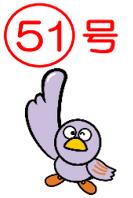




<http://www.namiki-masatoshi.com/>

討議資料

なみき  
**並木まさとし**



ナイスショット通信 第51号

発行者 埼玉県議会議員 並木正年 〒365-0038 鴻巣市本町3-2-19-B  
TEL 048-541-7777 FAX 048-543-8000 namikimasatoshi@soleil.ocn.ne.jp



**埼玉県と鴻巣市では校庭の芝生化を進めています**



9月下旬に完成予定の鴻巣南小



埼玉県では公立の小・中学校で1,000㎡以上の芝生化を実施する場合に700万円までは10/10、700万円を超えた場合は700万円と、さらに超えた額の1/2の事業費を補助(上限1,500万円)しています。

しかし、各市町村では整備費用の負担率1/2や維持管理などの課題があり、芝生化率は10.4%(H29年4月時点)と進んでいない状況です。

(東京都は約25%の学校で実施)

鴻巣市は近隣市と比較しても多くの校庭で芝生化を実施しており、積極的に学校環境の改善に取り組んでいます。

校庭の芝生化は日頃の維持管理が大きな課題となっていますが、鴻巣市では地域のボランティアの方々や PTA などの協力体制が整っているため、県内でも高い整備率となっています。

私も予算委員会において、芝生化の推進と「みどりの基金」を使った維持費の予算確保に取り組んでいます。

～近隣市の状況(小学校)～

北本市0/8校 桶川市0/7校 上尾市2/22校 伊奈町1/4校

鴻巣市内19小学校 これまでの実績 (単位 円, ㎡)

	芝生化の年度	学校名	県からの補助金	面積
1	平成 24 年度	笠原小	1,940,000	860
2	平成 24 年度	下忍小	3,462,000	1,600
3	平成 25 年度	小谷小	7,246,000	3,650
4	平成 26 年度	中央小	6,693,000	4,800
5	平成 27 年度	赤見台第一小	5,997,000	3,574
6	平成 28 年度	松原小	7,000,000	3,562
7	平成 29 年度	北小	13,375,000	4,195
8	平成 30 年度	南小	14,532,000	3,599

県内データ

県内の小学校芝生化率 10.4% (811校のうち84校で実施済み)

// 中学校芝生化率 2.7% (413校のうち11校で実施済み)

校庭の芝生化率の高い自治体(平成30年3月時点)

(県内1位) 本庄市(66.7%) 8/12校  
(県内2位) 鴻巣市(36.8%) 7/19校  
(県内3位) 熊谷市(31.0%) 9/29校

芝生面積の広さ(H21～H29年度累計)

(県内1位) 鴻巣市 22,241 ㎡ (7校)  
(県内2位) 本庄市 10,536 ㎡ (7校)  
(県内3位) 熊谷市 10,311 ㎡ (8校)

# 川の国「埼玉はつらつプロジェクト」を進めます

埼玉県は県土に占める河川面積の割合が日本一(3.9%)であり、一級河川数も162ある「川の国」と言われることから、多くの事業を展開しています。

河川の管理は荒川、利根川、江戸川などの大河川は国土交通省が、元荒川、中川、綾瀬川、入間川などは埼玉県がおこなっており、県では管理する河川の護岸整備や排水機場の機能強化、嵐山渓谷など川遊びスポットの整備をはじめ、環境面においても鮎を指標(年度平均値BOD3mg/L以下)にした水質の改善に取り組んでいます。

このような中、県から吹上地域の元荒川が【川の国 埼玉はつらつプロジェクト】として事業採択されており、水辺空間の整備や地域の賑わい拠点づくり事業が進められています。

元荒川は延長61km、流域面積216km<sup>2</sup>の中川水系の一級河川で、吹上地域には約8km流れており、埼玉自然100選や川の国埼玉魅力100選にも選ばれるなど、自然を生かした取り組みが期待されます。

また、吹上桜まつりのメイン会場である鎌塚イベント広場前の「佐賀橋」や一つ上流の「新佐賀橋」など、多くの橋が架けられており、新佐賀橋(昭和8年6月竣工)は県内で7つ目の「日本の近代土木遺産」として土木学会から選定されるなど、地域の憩いの場となっています。

今回の「はつらつプロジェクト」では客席にもなるような階段護岸、遊歩道、テラス、イベント開催時の舞台、展望デッキの設置要望など、地域の特色を生かした整備が進められていますので、吹上地域の元荒川が今後も地域の核となるよう賑わいづくりを支援していきます。



昭和8年6月竣工  
「新佐賀橋」



階段護岸と遊歩道



春には両岸に500本の桜

## 風水害に備えた水防訓練

気温38度を超える中、糠田グラウンドで水防訓練を実施しました。

水防団は水防法、消防団は消防組織法で定義されますが、全国的に見ても水防団の組織は少なく、鴻巣市においても消防団が水防団を兼任しています。(県内の水防団専任は加須、川越、熊谷のみ)

本県は恵まれた地形のもと、自然災害による被害総額(H28年)は全国43位と低く、土砂災害発生件数は全国47位(H19~H28年累計)で全国最少となっています。

しかし、鬼怒川が決壊した平成27年9月の関東・東北豪雨や西日本豪雨など、近年では気象条件の変化やこれまでの想定を超えた災害が各地で発生しているため、地域を守る消防団の役割が見直されています。

現在、水防工法の実施や水門の開閉など、実際の現場活動は多くありませんが、日頃から緊急時に備えた訓練を実施しています。



消防団の活動も22年目



## プロフィール

昭和45年(1970年)9月鴻巣市本町生まれ/鴻巣幼稚園/鴻巣東小学校/鴻巣中学校/埼玉栄高校(サッカー部)/亜細亜大学経済学部国際関係学科卒/セントラルワシントン大学AUAP課程修了/鴻巣幼稚園保護者会副会長/鴻巣東小PTA副会長/鴻巣市商工会青年部第31代部長/第8回こうのす花火大会代表/鴻巣市消防団第2分団員(22年目)/鴻巣市議会議員2期/H27年4月埼玉県議会議員初当選/環境農林委員/公社事業対策特別委員/家族・妻・長女・長男・愛犬レオ

最後までお読みいただきありがとうございました